

小噺・落語入門サロン

■ 前座 (今日の話題・話のネタ)



落語 THE PREZEN (扇子とプレゼンターの二刀流)

落語歳時記シリーズ

4月の落語 「道灌」

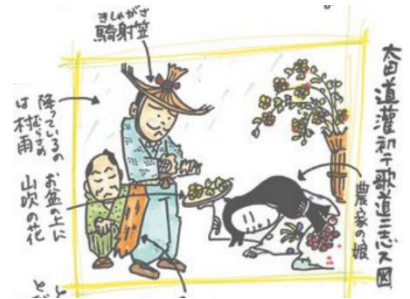
ご隠居の家を訪れた八五郎は、貼り雑ぜの屏風の絵に興味を持ち、何の絵かと尋ねる。それは歌人としても有名な室町時代の太田道灌の「山吹の里」の逸話を描いたものであ。狩りの途中、村雨に遭った道灌は雨具を借りるため貧しい軒家に飛び込む。住人の若い娘は山吹の枝を差し出し。意味がわからず戸惑う道灌に家臣が、

「七重八重 花は咲けども山吹の実のひとつだに なきぞ悲しき」という古歌を踏まえて、「実の」と「蓑」に掛け、貸し出せるような雨具はないことを娘は述べていると説明を受ける。これを聞いた道灌は、自分が歌道に暗いことを嘆き、後に大歌人となった。感心した八五郎はご隠居に歌を書いてもらい、よく家に雨具を借りに来る男がいるので、この歌で追い払ってやろうと考える。

ほどなくして雨が振り、男が家に飛び込んでくる。

しかし、男は既に傘を持っており、雨具ではなく提灯が欲しいという。困った八五郎は、蓑を貸して欲しいといえは提灯を貸すと言い、不思議に思いつつ男がそれに従うと、八五郎は例の歌を詠む。しかし、ところどころつかえ上手く詠めず、男から「それは都々逸か？」と聞かれてしまう。八五郎は「やっぱり、お前も歌道に暗えな」と言うと、男は言う。

「角（かど）が暗えから提灯を借りに来た」



原話 ■ 二つ目 (小咄の稽古)

映像や音声から学ぶ、小ばなしのコツ・つぼ
「プロに学ぶ小噺の話し方」落語の時間 “長屋の花見”

<https://www.youtube.com/watch?v=XbedDS-In5U&t=138s>

そのあと、皆さんの小ばなし披露とアドバイス

■ 大喜利

今回も 謎かけ で、お題は「蝶々」「新入社員」とかけて

次回は2025年5月13日（火）「みどり」「かつお」とかけて